預言者伝（スィーラ）

第 16 巻

ハイバルの戦い

近い勝利とアリーへの旗



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 16 巻

ハイバルの戦い

近い勝利とアリーへの旗 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

وَعَدَكُمُ ٱللَّهُ مَغَانِمَ كَثِيرَةً تَأْخُذُونَهَا فَعَجَّلَ لَكُمْ هَٰذِهِۦ وَكَفَّ أَيْدِيَ ٱلنَّاسِ عَنكُمْ وَلِتَكُونَ ءَايَةً لِّلْمُؤْمِنِينَ وَيَهْدِيَكُمْ صِرَٰطًا مُّسْتَقِيمًا

「アッラーは、あなたがたが得ることになる沢山の戦利品を約束なされた。しかも直ぐにそれを果たされ、あなたがたに（反抗する）人びとの手を押えられた。それは信仰する者への印であり、またあなたがたを正しい道に導くためである。」

勝利章 48:20

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

リドワーンの誓いの人々に近い勝利をもって約束を果たされ、一人の人間が導かれることを赤いラクダよりも尊いものとされたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 16 巻は、ハイバルの戦いを語ります。マディーナの北にある砦とナツメヤシ園の町、アリーに手渡された旗、アビシニアからのジャアファルの帰還、そして生涯の終わりまでその影響が残った毒入りの肉です。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは、**黒い玄武岩の砦**にある**重い木の門**で、**金色の朝**の光の中で大きく開かれています。その前には**豊かなナツメヤシ園**が広がり、木々の間を**澄んだ水路**が流れ、背後には**黒い溶岩の丘**が見えます。

開かれた砦の門は、アッラーの使徒 ﷺ の言葉を表しています：「明日、私はこの旗を、アッラーがその両手によって勝利を与えられる一人の男に渡そう」（『サヒーフ・ブハーリー』4210）。玄武岩と溶岩の丘は、ハイバルの町がある火山地帯ハッラト・ハイバルを思い起こさせ、ナツメヤシ園と水路は、のちに収穫折半の協定によって耕されたハイバルの富です（『サヒーフ・ブハーリー』2285）。朝の光は、使徒の言葉を思い起こさせます：「警告を受けた者たちの朝は、なんと悪いことか」（『サヒーフ・ブハーリー』4197）。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

ハイバルの戦い — はじめに

1. ハイバル：オアシスの中の砦の町 — スィーラ書

2. 約束された近い勝利 — 勝利章 48:18–21

3. 夜の行軍とアーミルの詩 — 『サヒーフ・ブハーリー』4196

4. 「ハイバルは滅びた！」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4197

5. 砦から砦へ — 図；スィーラ書

6. 一人の男への旗 — 『サヒーフ・ブハーリー』4210

7. 赤いラクダよりも良いもの — 『サヒーフ・ブハーリー』4210

8. マルハブとアル＝カムースの砦 — 『サヒーフ・ムスリム』1807；スィーラ書

9. 行いは最期によって決まる — 『サヒーフ・ブハーリー』4202

10. 燃える外套 — 『サヒーフ・ブハーリー』4234；イムラーン家章 3:161

11. 飼いロバの肉 — 『サヒーフ・ブハーリー』4217

12. 収穫折半の協定 — 『サヒーフ・ブハーリー』2285

13. サフィーヤ：捕虜から信者たちの母へ — 『サヒーフ・ブハーリー』5086

14. ジャアファルと船の人々 — 『サヒーフ・ブハーリー』4230

15. ハイバルに着いたアブー・フライラ — 『サヒーフ・ブハーリー』4237

16. 毒入りの羊の肉 — 『サヒーフ・ブハーリー』3169

17. 生涯の終わりまで残った毒の影響 — 『サヒーフ・ブハーリー』4428

18. ファダクとファイの財 — 集合章 59:6–7

19. 戦利品の分配 — 戦利品章 8:41

20. 宗教に強制なし — 雌牛章 2:256

21. ハイバルの物語の典拠 — 図；表

22. ハイバルからの帰路 — 『サヒーフ・ブハーリー』4205、2889；『サヒーフ・ムスリム』680

23. ハイバルからの法規定 — 『サヒーフ・ブハーリー』4216、853、2201；『サヒーフ・ムスリム』1406、1591

24. ハイバルの戦いの人物 — 表；『サヒーフ・ムスリム』1807

25. ハイバルの昔と今 — 地理と考古学

26. ハイバルの戦いの年表 — 表；『サヒーフ・ブハーリー』2338

27. ハイバルの戦いについてのよくある質問 — 12 の質問

28. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

ハイバルの戦い

『預言者伝（スィーラ）』第 15 巻は、リドワーンの誓いの人々に「**近い勝利**」を約束する勝利章で終わりました（48:18）。その約束は長く待たされませんでした。フダイビーヤから戻って約 **2 か月**後、**ヒジュラ暦 7 年ムハッラム月**に、アッラーの使徒ﷺは北へ向かい、**ハイバル**を目指されました。

ハイバルは肥沃で堅固な砦をもつオアシスの町で、マディーナから追放されたナディール族の指導者たちが身を寄せ（第 11 巻）、部族連合（アル＝アフザーブ）を扇動した中心地でもありました（第 12 巻）。ハイバルの戦いは北からの脅威に終止符を打ち、ここから有名な物語が生まれました：**アリーに手渡された旗**、アビシニアからの**ジャアファル**の帰還、そして**毒入りの肉**です。

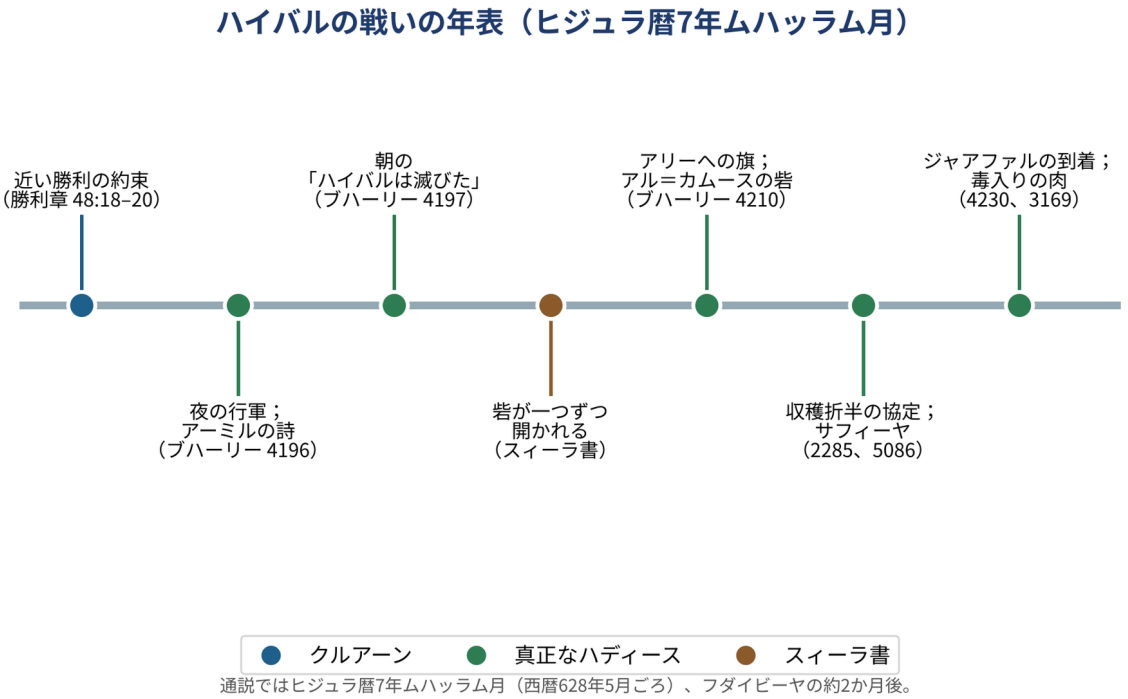


図 1：ハイバルの戦いの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

ハイバル：オアシスの中の砦の町

ハイバルはマディーナの北約 ***150 km*** にあります。広大な**ナツメヤシ園**と多くの**泉**で知られるオアシスで、ヒジャーズで最も肥沃な農地の一つでした。住民は丘の上に堅固な石の**砦**を築き、長期間の備蓄をしていました。

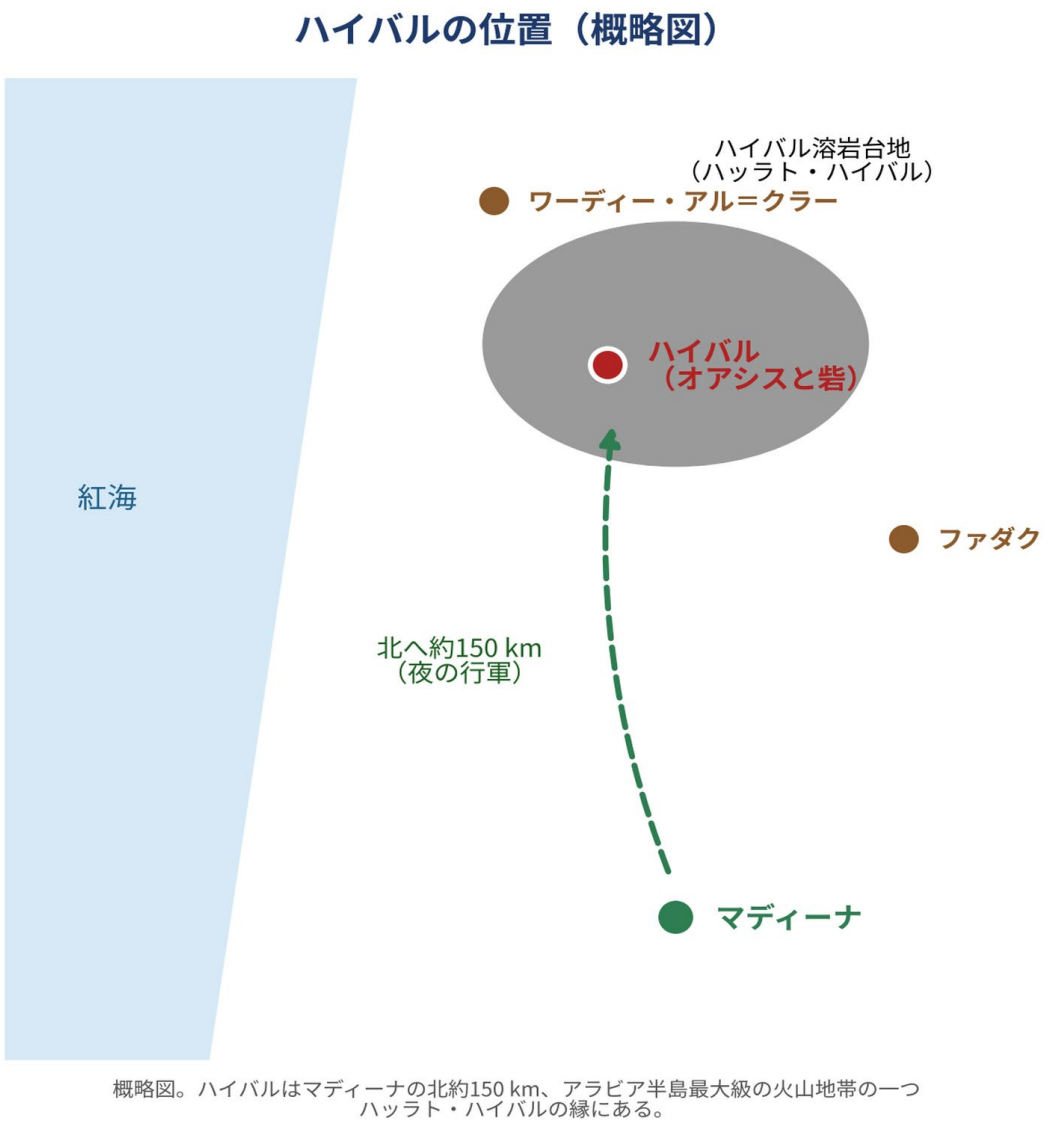


図 2：マディーナの北にあるハイバルの位置（概略図）。

科学の注：火山地帯の中のオアシス

ハイバルは、アラビア半島最大級の**火山地帯**の一つである**ハッラト・ハイバル**の縁にあります。この地帯は約 14,000 km²に及び、数百の火山錐と玄武岩の溶岩流があり

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ます（Wikipedia「Harrat Khaybar」）。ひびや穴の多い玄武岩は**雨水を地下にしみ込ませ**、地下水として蓄え、溶岩地帯のふもとで再び**泉**として湧き出させます。

これがハイバルの肥沃さの秘密です。表面は乾いた黒い大地に見えても、その内に水を蓄えているのです。アッラーは大地に蓄えられた水について仰せられます：「またわれは、天から程よく雨を降らせて、それを大地に留める」（信者たち章23:18）。教訓：ハイバルの富は**アッラーの恵み**であり、その恵みはやがてムスリムに託されることになります。

約束された近い勝利

フダイビーヤからの帰り道、アッラーは誓いを立てた者たちに報奨を約束されました：「**かれらに安らぎを下し、近い勝利でかれらに報いられた**」『イブン・カスィール注釈』48:18。

「**アッラーは、あなたがたが獲得する多くの戦利品を約束され、この（戦利品）を早めて与えられた**」『イブン・カスィール注釈』48:20。

イブン・カスィールと注釈学者たちは、「**近い勝利**」と「**早めて与えられた戦利品**」とは**ハイバル**のことであると説明しています。スィーラ書は、アッラーの使徒 ﷺ が**フダイビーヤの人々**だけをハイバルへ連れて行かれ、ハイバルの財はかれらに特別に分配されたと伝えています。アッラーの約束の成就としてです。

勝利章の約束	その成就
「近い勝利」（48:18）	2 か月後にハイバルが開かれる
「多くの戦利品」（48:19–20）	ハイバルの園と土地
「人々の手を押しとどめられた」（48:20）	ガタファーン族はハイバルを助けられなかった（スィーラ書）
「まだあなたがたの力の及ばない他のもの」（48:21）	マッカと、のちに開かれた国々

教訓：**アッラーの約束は必ず果たされます**。フダイビーヤの厳しい条件を忍耐して受け入れた人々が、今や勝利と広い糧を受けたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

フダイビーヤの人々だけ

スィーラ書によれば、出発前、フダイビーヤに参加しなかった人々 — かつて拒んだアラブの諸部族を含む — が、戦利品を期待して同行を望みました。アッラーはこのことを勝利章ですでに告げておられました：「あなたがたが戦利品を取りに出かけるとき、残留した者たちは『わたしたちにも、あなたがたに従わせてください』と言うであろう」（勝利章 48:15）。

アッラーの使徒 ﷺ は、フダイビーヤで**誠実に努めた者**だけを連れて行かれました。教訓：報奨は、**苦しいとき**に共にいた者に与えられるのであって、利益があるときだけ現れる者に与えられるのではありません。

夜の行軍とアーミルの詩

ムスリム軍は夜に進みました。サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه は、ある人がかれのおじ**アーミル・ブン・アル＝アクワウ**に「何か歌って聞かせてくれないか」と言ったと伝えています。アーミルは詩人で、ラクダから降りてラクダのために詩を吟じました：「**アッラーよ、あなたがおられなければ、私たちは導かれず、施しもせず、礼拝もしなかったでしょう……**」（『サヒーフ・ブハーリー』4196）。

アッラーの使徒 ﷺ は尋ねられました：「このラクダ追いは誰か」。人々は「アーミル・ブン・アル＝アクワウです」と答えました。使徒は「**アッラーがかれに慈悲をかけられますように**」と言われました。ある教友は言いました：「アッラーの預言者よ、（殉教は）かれのものと決まりました。もう少しかれと共にいさせてくだされば良かったのに」。教友たちは、慈悲を祈る言葉が、アーミルが殉教することを意味すると理解したのです（『サヒーフ・ブハーリー』4196）。

スィーラの注：跳ね返った剣

ハイバルでの戦いの中、アーミルの剣は短く、一人のユダヤ教徒に切りつけたとき、**剣先が跳ね返って自分の膝に当たり**、かれは亡くなりました。ある人々は、自分の武器で死んだのだから、かれの行いは無駄になったと言いました。サラマが悲しんでアッラーの使徒 ﷺ のもとに来ると、使徒は二本の指を合わせながら言われました：「**そう言った者は嘘をついている。かれには二つの報奨がある**」（『サヒーフ・ブハーリー』4196）。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』4196；『サヒーフ・ムスリム』1802。https://sunnah.com/bukhari:4196

教訓：人がどのように亡くなったかで、その人の**行いを裁く**のを急いではなりません。アッラーは意図と行いを量られ、アッラーの使徒 ﷺ は亡くなった教友の名誉を守られました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

「ハイバルは滅びた！」

アッラーの使徒 ﷺ は夜にハイバルに着かれましたが、暗闇の中で攻撃はされませんでした。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、朝に起きたことを語っています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4197 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، أَخْبَرَنَا مَالِكٌ، عَنْ حُمَيْدٍ الطَّوِيلِ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَتَى خَيْبَرَ لَيْلاً، وَكَانَ إِذَا أَتَى قَوْمًا بِلَيْلٍ لَمْ يُغِرْ بِهِمْ حَتَّى يُصْبِحَ، فَلَمَّا أَصْبَحَ خَرَجَتِ الْيَهُودُ بِمَسَاحِيهِمْ وَمَكَاتِلِهِمْ، فَلَمَّا رَأَوْهُ قَالُوا مُحَمَّدٌ وَاللَّهِ، مُحَمَّدٌ وَالْخَمِيسُ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم خَرِبَتْ خَيْبَرُ، إِنَّا إِذَا نَزَلْنَا بِسَاحَةِ قَوْمٍ فَسَاءَ صَبَاحُ الْمُنْذَرِينَ.

訳：

アナス رضى الله عنه は伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ は夜にハイバルに着かれた。使徒は夜にある民のもとに着かれると、朝になるまで攻撃されなかった。**朝になると、ユダヤ教徒たちは鍬とかごを持って出てきた。かれらは使徒を見ると言った：「ムハンマドだ、アッラーにかけて！ムハンマドとその軍勢（アル＝ハミース）だ！」預言者 ﷺ は言われた：「**ハイバルは滅びた！まことに、われらがある民の庭に降り立つとき、警告を受けた者たちの朝はなんと悪いことか。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← マーリク・ブン・アナス ← フマイド・アッ＝タウィール ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4197 番；第 371 番、第 4200 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1365 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4197

別の伝承でアナスは、アッラーの使徒 ﷺ が攻撃の前に**夜明けの礼拝の時を待たれた**と述べています。アザーンが聞こえれば手を控え、聞こえなければ攻撃されました（『サヒーフ・ブハーリー』610）。アザーンは、その民がムスリムであることのしるしだったのです。

戦いの作法	このハディースの中で
夜には攻撃しない	状況がはっきりする朝を待つ
イスラームのしるしを見る	行動の前にアザーンに耳を傾ける（ブハーリー 610）
警告はすでに与えられていた	「警告を受けた者たちの朝はなんと悪いことか」
タクビール	「アッラーは偉大なり、ハイバルは滅びた」（ブハーリー 371）

使徒の言葉「**警告を受けた者たちの朝はなんと悪いことか**」は、クルアーン（整列者章 37:177）からとられたものです。教訓：イスラームは警告なしの奇襲をせず、すでにイスラームに入っているかもしれない人々の**命を守ります**。

タクビール：アッラーフ・アクバル

アナスの別の伝承では、アッラーの使徒 ﷺ は「ハイバルは滅びた」と言われる前に「**アッラーフ・アクバル（アッラーは偉大なり）**」と言われています（『サヒーフ・ブハーリー』371）。タクビールは、**アッラーがより偉大である**こと、最も堅固な砦よりも、最も大きな軍勢よりも偉大であることを思い起こさせます。

教訓：信仰者は大きな事業を**アッラーの偉大さを念じる**ことから始めます。そうすれば心は困難の大きさにおびえず、自分の力におごることもありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

砦から砦へ

ハイバルは一つの砦ではなく、いくつかの地区に散らばる**砦の集まり**でした。スィーラ書によれば、ムスリムはそれらを約 **20 夜**、あるいはそれ以上かけて一つずつ開いていきました。



図 3：スィーラ書によるハイバルの砦。

スィーラの注：両軍の兵力

スィーラ書は、ムスリム軍を約 **1,400 人** — フダイビーヤの人々 —、馬約 200 頭と見積もっています。ハイバルの戦士は約 **10,000 人**と見積もられています。ハイバルの同盟者**ガタファーン族**は救援に出ましたが、自分たちの村が襲われることを恐れて引き返しました。

参照：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；Wikipedia「Battle of Khaybar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Khaybar

包囲は厳しいものでした（第 11 章）。教訓：約束された勝利であっても、**忍耐と努力**が必要なのです。

一人の男への旗

最も堅固な砦の一つは、何日も攻め落とせませんでした。そこでアッラーの使徒 ﷺ は、教友たちが希望を抱いてその夜眠れなくなるような言葉を語られました。サフル・ブン・サアド رضى الله عنه は伝えています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4210 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا يَعْقُوبُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، عَنْ أَبِي حَازِمٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي سَهْلُ بْنُ سَعْدٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ يَوْمَ خَيْبَرَ لأُعْطِيَنَّ هَذِهِ الرَّايَةَ غَدًا رَجُلاً، يَفْتَحُ اللَّهُ عَلَى يَدَيْهِ، يُحِبُّ اللَّهَ وَرَسُولَهُ، وَيُحِبُّهُ اللَّهُ وَرَسُولُهُ. قَالَ فَبَاتَ النَّاسُ يَدُوكُونَ لَيْلَتَهُمْ أَيُّهُمْ يُعْطَاهَا فَلَمَّا أَصْبَحَ النَّاسُ غَدَوْا عَلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، كُلُّهُمْ يَرْجُو أَنْ يُعْطَاهَا فَقَالَ أَيْنَ عَلِيُّ بْنُ أَبِي طَالِبٍ. فَقِيلَ هُوَ يَا رَسُولَ اللَّهِ يَشْتَكِي عَيْنَيْهِ. قَالَ فَأَرْسِلُوا إِلَيْهِ. فَأُتِيَ بِهِ فَبَصَقَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فِي عَيْنَيْهِ، وَدَعَا لَهُ، فَبَرَأَ حَتَّى كَأَنْ لَمْ يَكُنْ بِهِ وَجَعٌ، فَأَعْطَاهُ الرَّايَةَ، فَقَالَ عَلِيٌّ يَا رَسُولَ اللَّهِ أُقَاتِلُهُمْ حَتَّى يَكُونُوا مِثْلَنَا، فَقَالَ انْفُذْ عَلَى رِسْلِكَ حَتَّى تَنْزِلَ بِسَاحَتِهِمْ، ثُمَّ ادْعُهُمْ إِلَى الإِسْلاَمِ، وَأَخْبِرْهُمْ بِمَا يَجِبُ عَلَيْهِمْ مِنْ حَقِّ اللَّهِ فِيهِ، فَوَاللَّهِ لأَنْ يَهْدِيَ اللَّهُ بِكَ رَجُلاً وَاحِدًا خَيْرٌ لَكَ مِنْ أَنْ يَكُونَ لَكَ حُمْرُ النَّعَمِ.

訳：

サフル・ブン・サアド رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がハイバルの日に言われたと伝えています：「**明日、私はこの旗を、アッラーがその両手によって勝利を与えられる一人の男に渡そう。かれはアッラーとその使徒を愛し、アッラーとその使徒もかれを愛している。**」人々は、誰に旗が渡されるのかを語り合いながら夜を過ごした。朝になると、皆がアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て、それぞれ自分に渡されることを願った。使徒は尋ねられた：「アリー・ブン・アビー・ターリブはどこにいるか」。「アッラーの使徒よ、かれは目を患っています」と言われると、使徒は「かれを呼びなさい」と言われた。かれが連れて来られると、**アッラーの使徒 ﷺ はかれの目に少し唾をつけて祈ら**

れ、かれはまるで病んだことがなかったかのように癒えた。使徒はかれに旗を渡された。アリーは尋ねた：「アッラーの使徒よ、かれらが私たちのようになるまで戦うのですか」。使徒は言われた：**「落ち着いて進み、かれらの庭に着いたら、イスラームへと呼びかけ、アッラーの権利としてかれらに課されていることを告げなさい。**アッラーにかけて、アッラーがあなたを通して一人の人を導かれることは、あなたにとって赤いラクダよりも良い。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ヤアクーブ・ブン・アブドゥッラフマーン ← アブー・ハーズィム ← サフル・ブン・サアド رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4210 番；第 2942 番、第 3701 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 2406 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4210

「かれはアッラーとその使徒を愛している」

教友たちが皆その旗を望んだのは、地位がほしかったからではなく、**約束された資質**のため、つまりアッラーとその使徒に愛されることのためでした。ウマル رضى الله عنه は言いました：「私は、あの日以外に指導者の地位を望んだことはない」（『サヒーフ・ムスリム』2405）。

アリーの目に起きた奇跡 — アッラーの使徒 ﷺ の唾と祈りによってたちまち癒えたこと — は、全軍の目の前で起こりました。教訓：**アッラーとその使徒への愛**こそ、教友たちが財産や地位よりも切望した最高の位なのです。

目を患ったアリー

サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه は、アリーの熱意を示す細部を伝えています。目を患っていたにもかかわらず、かれは**遅れることを拒んだ**のです — アッラーの使徒 ﷺ から：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4209 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مَسْلَمَةَ، حَدَّثَنَا حَاتِمٌ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ أَبِي عُبَيْدٍ، عَنْ سَلَمَةَ، رضى الله عنه قَالَ كَانَ عَلِيٌّ ـ رضى الله عنه ـ تَخَلَّفَ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فِي خَيْبَرَ، وَكَانَ رَمِدًا فَقَالَ أَنَا أَتَخَلَّفُ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فَلَحِقَ، فَلَمَّا بِتْنَا اللَّيْلَةَ الَّتِي فُتِحَتْ قَالَ لأُعْطِيَنَّ الرَّايَةَ غَدًا ـ أَوْ لَيَأْخُذَنَّ الرَّايَةَ غَدًا ـ رَجُلٌ يُحِبُّهُ اللَّهُ وَرَسُولُهُ، يُفْتَحُ عَلَيْهِ. فَنَحْنُ نَرْجُوهَا فَقِيلَ هَذَا عَلِيٌّ، فَأَعْطَاهُ فَفُتِحَ عَلَيْهِ.

訳：

サラマ رضي الله عنه は言った：**アリー رضي الله عنه は目を患っていたため、ハイバル（への道）で預言者 ﷺ から遅れていた。かれは言った：「私が預言者 ﷺ から遅れていてよいものか」。そしてかれは追いついた。**ハイバルが開かれる前夜、使徒は言われた：「明日、私は旗を渡そう — あるいは、明日一人の男が旗を取るであろう — アッラーとその使徒に愛される者に。勝利はかれを通して与えられる」。私たちは皆それを望んでいた。すると「アリーが来た」と言われた。**使徒はかれに旗を渡され、勝利はかれを通して与えられた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・マスラマ ← ハーティム・ブン・イスマーイール ← ヤズィード・ブン・アビー・ウバイド ← サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4209 番；第 2975 番、第 3702 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 2407 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4209

教訓：アリーは病を遅れる口実にせず、アッラーは皆が望んだ栄誉をかれに授けられました。**困難な中での真剣さ**が、思いがけない栄誉の扉を開くことがあるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

赤いラクダよりも良いもの

サフル・ブン・サアドのハディースにある、アリーの問いとアッラーの使徒 ﷺ の答えに注目してください。アリーは「かれらが私たちのようになるまで戦うのですか」と尋ねました。使徒は戦いの命令ではなく、**呼びかけ（ダアワ）の命令**で答えられました：「イスラームへと呼びかけなさい.....**アッラーにかけて、アッラーがあなたを通して一人の人を導かれることは、あなたにとって赤いラクダよりも良い。**」

赤いラクダは、当時のアラブ人にとって最も価値ある財産で、現代でいえば高級車のようなものでした。アッラーの使徒 ﷺ は、**一人の人間が導かれること**は、最も高価な財産よりも価値があると教えられたのです。

アリーへの指示	原則
「落ち着いて進みなさい」	急がず、性急にならない
「かれらの庭に着くまで」	面と向かって会う
「イスラームへと呼びかけなさい」	戦いの前に呼びかけ
「アッラーの権利を告げなさい」	はっきりとした説明
「赤いラクダよりも良い」	目的は導きであって、財産ではない

教訓：イスラームにおけるジハードの目的は**導きへの道を開くこと**であり、財産を奪ったり復讐したりすることではありません。どのような職業のムスリムでも、誰かがアッラーを知るきっかけとなることで、この「赤いラクダ」を得ることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マルハブとアル＝カムースの砦

アブー・アル＝フカイク家の**アル＝カムース**の砦は、ハイバルで最も堅固な砦の一つでした。有名なユダヤ教徒の戦士**マルハブ**が出てきて、自分を誇る詩を吟じながら、一騎打ちに応じる者に挑みました。

イマーム・ムスリムは、サラマ・ブン・アル＝アクワウ رضي الله عنه の長いハディースの中で、アリーが詩を吟じながらその挑戦に応じたと伝えています：「**私こそ、母がハイダラ（獅子）と名づけた者……**」そしてアリーはマルハブの頭に切りつけてかれを倒し、**勝利はアリーの手によって与えられました**（『サヒーフ・ムスリム』1807）。

スィーラの注：砦の門の話

一部のスィーラ書は、アリーがハイバルの**砦の門**を持ち上げて盾とし、その後、数人の男たちでもそれを持ち上げられなかったと伝えています。この話は世間でよく知られていますが、アッ＝ザハビーやイブン・ハジャルなどのハディース学者によれば**その伝承経路は弱い**のです。ここでは、確かな伝承としてではなく、その位置づけを読者が知るために記しています。

真正なのは次のことです：アリーが旗を受け取り、目が癒え、マルハブを倒し、砦はかれの手によって開かれました（ブハーリー 4210；ムスリム 1807）。

参照：

『サヒーフ・ムスリム』1807；イブン・ハジャル『バーリーの開示（ファトフ・アル＝バーリー）』；アッ＝ザハビー『均衡の秤（ミーザーン・アル＝イウティダール）』。
https://sunnah.com/muslim:1807

教訓：教友たちの勇気の物語は、真正な伝承だけで十分に偉大です。かれらを称えるために、弱い伝承を**付け加える必要はありません。**

行いは最期によって決まる

ハイバルでは、**意図と行いの最期**について深く考えさせられる出来事も起きました。

サフル・ブン・サアド・アッ＝サーイディー رضى الله عنه は語っています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4202 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ، حَدَّثَنَا يَعْقُوبُ، عَنْ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ سَهْلِ بْنِ سَعْدٍ السَّاعِدِيِّ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْتَقَى هُوَ وَالْمُشْرِكُونَ فَاقْتَتَلُوا، فَلَمَّا مَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى عَسْكَرِهِ، وَمَالَ الآخَرُونَ إِلَى عَسْكَرِهِمْ، وَفِي أَصْحَابِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم رَجُلٌ لاَ يَدَعُ لَهُمْ شَاذَّةً وَلاَ فَاذَّةً إِلاَّ اتَّبَعَهَا، يَضْرِبُهَا بِسَيْفِهِ، فَقِيلَ مَا أَجْزَأَ مِنَّا الْيَوْمَ أَحَدٌ كَمَا أَجْزَأَ فُلاَنٌ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَمَا إِنَّهُ مِنْ أَهْلِ النَّارِ. فَقَالَ رَجُلٌ مِنَ الْقَوْمِ أَنَا صَاحِبُهُ. قَالَ فَخَرَجَ مَعَهُ كُلَّمَا وَقَفَ وَقَفَ مَعَهُ، وَإِذَا أَسْرَعَ أَسْرَعَ مَعَهُ ـ قَالَ ـ فَجُرِحَ الرَّجُلُ جُرْحًا شَدِيدًا، فَاسْتَعْجَلَ الْمَوْتَ، فَوَضَعَ سَيْفَهُ بِالأَرْضِ وَذُبَابَهُ بَيْنَ ثَدْيَيْهِ، ثُمَّ تَحَامَلَ عَلَى سَيْفِهِ، فَقَتَلَ نَفْسَهُ، فَخَرَجَ الرَّجُلُ إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ أَشْهَدُ أَنَّكَ رَسُولُ اللَّهِ قَالَ وَمَا ذَاكَ. قَالَ الرَّجُلُ الَّذِي ذَكَرْتَ آنِفًا أَنَّهُ مِنْ أَهْلِ النَّارِ، فَأَعْظَمَ النَّاسُ ذَلِكَ، فَقُلْتُ أَنَا لَكُمْ بِهِ. فَخَرَجْتُ فِي طَلَبِهِ، ثُمَّ جُرِحَ جُرْحًا شَدِيدًا، فَاسْتَعْجَلَ الْمَوْتَ، فَوَضَعَ نَصْلَ سَيْفِهِ فِي الأَرْضِ وَذُبَابَهُ بَيْنَ ثَدْيَيْهِ، ثُمَّ تَحَامَلَ عَلَيْهِ، فَقَتَلَ نَفْسَهُ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم عِنْدَ ذَلِكَ إِنَّ الرَّجُلَ لَيَعْمَلُ عَمَلَ أَهْلِ الْجَنَّةِ، فِيمَا يَبْدُو لِلنَّاسِ، وَهْوَ مِنْ أَهْلِ النَّارِ، وَإِنَّ الرَّجُلَ لَيَعْمَلُ عَمَلَ أَهْلِ النَّارِ، فِيمَا يَبْدُو لِلنَّاسِ، وَهْوَ مِنْ أَهْلِ الْجَنَّةِ.

訳：

サフル・ブン・サアド・アッ＝サーイディー رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ と多神教徒たちが出会って戦ったと伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ の教友の中に、離れた敵を一人も見逃さず、追いかけて剣で切りつける男がいた。人々は言った：「今日、私たちの中で誰もあの者ほど働いた者はいない」。アッラーの使徒 ﷺ は言われた：「よく聞きなさい、かれは地獄の民である」。**ある男が「私がかれについて行こう」と言い、

かれの後をつけた……やがてその男は重傷を負い、**耐えきれずに**自分の剣で死を早めた。後をつけた男はアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て言った：「私は、あなたがアッラーの使徒であることを証言します」。アッラーの使徒 ﷺ はそのとき言われた：「**まことに、ある人は人々の目には楽園の民の行いをしていても、地獄の民である。ある人は人々の目には地獄の民の行いをしていても、楽園の民である。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ヤアクーブ・ブン・アブドゥッラフマーン ← アブー・ハーズィム ← サフル・ブン・サアド・アッ＝サーイディー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4202 番；第 2898 番、第 6493 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 112 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4202

その男はたいへん激しく戦い、皆がかれを称えました。しかしアッラーの使徒 ﷺ は、啓示によって**隠されていたこと**を知っておられました。かれは傷の痛みに耐えられず、自ら命を絶ったのです — イスラームにおける大罪です。学者たちは、別の伝承では、かれがアッラーのためではなく**部族の熱情**のために戦っていたと説明しています。

アッラーの使徒 ﷺ はまた言われました：「**まことに、行いは最期によって決まる。**」（『サヒーフ・ブハーリー』6607）。私たちは自分の最期がどうなるかを知りません。だから、アッラーが私たちの心を**堅く保ってくださる**よう、その教えの上にとどめてくださるよう、常に祈るのです。

イスラームは命を**アッラーからの預かりもの**とみなし、自分自身を傷つけることを禁じています：「あなたがた自身を殺してはならない」（女性章 4:29）。痛みや試練は、どれほど重くても、忍耐と助けを求めることで向き合うものです。教訓：**見か**

けにだまされてはなりません。そして常に、アッラーのために意図を新たにしましょう。

心の堅固さを求める祈り

行いの最期は分からないので、アッラーの使徒 ﷺ ご自身が常にこう祈っておられました：「**ヤー・ムカッリバル・クルーブ、サッビト・カルビー・アラー・ディーニク**」 — 「心を移り変わらせる御方よ、私の心をあなたの教えの上に堅く保ってください。」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2140、ハサン（良好）と評価）。

罪から守られたアッラーの使徒 ﷺ でさえ心の堅固さを求められたのなら、私たちにはなおさら必要です。教訓：すでに行った善行で**安心しきって**はなりません。生涯の終わりまで祈り、行い続けましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

燃える外套

勝利の後、新たな試練が訪れました。**戦利品**です。イスラームでは、戦利品は集められ、公正に分配されねばならず、分配の前には誰も少しも取ってはなりません。アブー・フライラ رضى الله عنه は、恐ろしい出来事を語っています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4234 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا مُعَاوِيَةُ بْنُ عَمْرٍو، حَدَّثَنَا أَبُو إِسْحَاقَ، عَنْ مَالِكِ بْنِ أَنَسٍ، قَالَ حَدَّثَنِي ثَوْرٌ، قَالَ حَدَّثَنِي سَالِمٌ، مَوْلَى ابْنِ مُطِيعٍ أَنَّهُ سَمِعَ أَبَا هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ افْتَتَحْنَا خَيْبَرَ، وَلَمْ نَغْنَمْ ذَهَبًا وَلاَ فِضَّةً، إِنَّمَا غَنِمْنَا الْبَقَرَ وَالإِبِلَ وَالْمَتَاعَ وَالْحَوَائِطَ، ثُمَّ انْصَرَفْنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى وَادِي الْقُرَى، وَمَعَهُ عَبْدٌ لَهُ يُقَالُ لَهُ مِدْعَمٌ، أَهْدَاهُ لَهُ أَحَدُ بَنِي الضِّبَابِ، فَبَيْنَمَا هُوَ يَحُطُّ رَحْلَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِذْ جَاءَهُ سَهْمٌ عَائِرٌ حَتَّى أَصَابَ ذَلِكَ الْعَبْدَ، فَقَالَ النَّاسُ هَنِيئًا لَهُ الشَّهَادَةُ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم بَلَى وَالَّذِي نَفْسِي بِيَدِهِ، إِنَّ الشَّمْلَةَ الَّتِي أَصَابَهَا يَوْمَ خَيْبَرَ مِنَ الْمَغَانِمِ لَمْ تُصِبْهَا الْمَقَاسِمُ لَتَشْتَعِلُ عَلَيْهِ نَارًا. فَجَاءَ رَجُلٌ حِينَ سَمِعَ ذَلِكَ مِنَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم بِشِرَاكٍ أَوْ بِشِرَاكَيْنِ، فَقَالَ هَذَا شَىْءٌ كُنْتُ أَصَبْتُهُ. فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم شِرَاكٌ أَوْ شِرَاكَانِ مِنْ نَارٍ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った：**私たちはハイバルを開いたが、戦利品として金も銀も得なかった。得たのは牛、ラクダ、品物、そして果樹園だけであった。**それから私たちはアッラーの使徒 ﷺ と共にワーディー・アル＝クラーへ向かった。使徒のもとにはミドアムという名の奴隷がいた。かれがアッラーの使徒 ﷺ の鞍を下ろしていると、突然どこからともなく矢が飛んできて、かれに当たった。人々は言った：「おめでとう、殉教だ！」アッラーの使徒 ﷺ は言われた：「**いや！わが魂をその御手に握られる御方にかけて、かれがハイバルの日に分配前の戦利品から取った外套は、必ずや火となってかれの上で燃えるであろう。**」これを聞いて、ある男が靴ひもを一本か二本持っ

て来て言った：「これは私が取ったものです」。アッラーの使徒 ﷺ は言われた：「**靴ひも一本か二本も、火から出たものだ。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← ムアーウィヤ・ブン・アムル ← アブー・イスハーク・アル＝ファザーリー ← マーリク・ブン・アナス ← サウル・ブン・ザイド ← イブン・ムティーウの解放奴隷サーリム ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4234 番；第 6707 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 115 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4234

クルアーンは、財産の横領（グルール）について厳しく警告しています：「**横領する者は、復活の日に、その横領したものを持って来るであろう**」『イブン・カスィール注釈』3:161。

想像してみてください。アッラーの使徒 ﷺ に仕えている最中に殺され、人々が殉教者だと思った奴隷が、不正に取った**一枚の外套**のために火に包まれるのです。**靴ひも一本**でさえ「火から出たもの」と言われました。

今日の教訓：**公共の財産** — 会社のお金、政府の予算、モスクの基金 — はとても重い預かりものです。権利なしにそれをわずかでも取れば、火で警告されたグルールに含まれます。

現代のグルール

アッラーの使徒 ﷺ は言われました：「**われらがある仕事に任命した者が、針一本、あるいはそれより小さいものでも私たちから隠したなら、それはグルール（横領）であり、かれは復活の日にそれを持って来るであろう。**」（『サヒーフ・ムスリム』1833）。

今日、グルールは**賄賂、偽りの請求、資金の流用**、職場の物を私用に使うことなどの形で起こりえます。教訓：預かりものに「小さすぎる」ものはありません。針一本、靴ひも一本、事務所の紙一枚でもです。

飼いロバの肉

包囲中の飢えの中、教友たちは**飼いロバ**を屠って料理しました。するとアッラーの使徒 ﷺ から禁止が下りました：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4217 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ مُقَاتِلٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ عُمَرَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم نَهَى يَوْمَ خَيْبَرَ عَنْ لُحُومِ الْحُمُرِ الأَهْلِيَّةِ.

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ はハイバルの日に、飼いロバの肉（を食べること）を禁じられた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ムカーティル ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ムバーラク ← ウバイドゥッラー・ブン・ウマル ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4217 番；第 4218〜4227 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1407 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4217

別の伝承では、アッラーの使徒 ﷺ は**ロバの肉が煮えたっている鍋をひっくり返す**よう命じられ、それは「リジス」（不浄）であると言われました（『サヒーフ・ブハーリー』4198〜4199）。教友たちは、空腹で肉がほとんど煮えていたにもかかわらず、すぐに従いました。

ハイバルからの規定	説明
飼いロバの肉	食べることは禁じられる（ブハーリー 4217；ムスリム 1407）
野生のロバ（ヒマール・ワフシー）	狩りの獲物であるため許される

ハイバルからの規定	説明
馬の肉	許される（ブハーリー 4219）
牙のある猛獣	食べることは禁じられる（ムスリム 1934）

教訓：空腹のときでも**すぐに従うこと**。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

収穫折半の協定

ハイバルが開かれた後、その土地はムスリムのものとなりました。しかしアッラーの使徒 ﷺ は住民を追い出されませんでした。使徒は賢明な**経済協定**を結ばれたのです：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 2285 番

حَدَّثَنَا مُوسَى بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا جُوَيْرِيَةُ بْنُ أَسْمَاءَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ أَعْطَى رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَيْبَرَ أَنْ يَعْمَلُوهَا وَيَزْرَعُوهَا وَلَهُمْ شَطْرُ مَا يَخْرُجُ مِنْهَا، وَأَنَّ ابْنَ عُمَرَ حَدَّثَهُ أَنَّ الْمَزَارِعَ كَانَتْ تُكْرَى عَلَى شَىْءٍ سَمَّاهُ نَافِعٌ لاَ أَحْفَظُهُ. وَأَنَّ رَافِعَ بْنَ خَدِيجٍ حَدَّثَ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم نَهَى عَنْ كِرَاءِ الْمَزَارِعِ. وَقَالَ عُبَيْدُ اللَّهِ عَنْ نَافِعٍ عَنِ ابْنِ عُمَرَ حَتَّى أَجْلاَهُمْ عُمَرُ.

訳：

アブドゥッラー（・ブン・ウマル）رضى الله عنهما は言った：**アッラーの使徒 ﷺ はハイバル（の土地）を（その住民に）任せ、かれらがそれを耕し、作物を植え、収穫の半分をかれらのものとされた。**イブン・ウマルは、かつて畑はナーフィウが述べたもの（伝承者は覚えていない）で貸し出されていたと語り、ラーフィウ・ブン・ハディージュは、預言者 ﷺ が（ある種の方法での）畑の貸借を禁じられたと語った。ウバイドゥッラーはナーフィウから、イブン・ウマルから伝えた：**（かれらはそのまま続けた）ウマルがかれらを立ち退かせるまで。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール ← ジュワイリヤ・ブン・アスマー ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما；またラーフィウ・ブン・ハディージュ；およびウバイドゥッラー・ブン・ウマル ← ナーフィウ ← イブン・ウマル。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』賃貸の書、ハディース第 2285 番；第 2329 番、第 2338 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1551 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2285

この協定は、**ムサーカー**（果樹の場合）と**ムザーラア**（作物の場合）として知られています。地主が土地を耕作者に任せ、収穫を二人で分けるのです。ハイバルの住民は自分たちのナツメヤシ園の扱いに長けており、ムスリムは呼びかけと防衛に忙しかったのです。

協定の利点	説明
住民は自分の土地にとどまる	住まいと生計を失わない
技能が生かされる	熟練した農民が園を耕し続ける
収穫は公正に分けられる	半分は耕作者に、半分はムスリムに
取引に関するフィクフの基礎	ムサーカーとムザーラアが許される根拠

スィーラの注：アブドゥッラー・ブン・ラワーハの見積もり

イマーム・マーリクらは、**アブドゥッラー・ブン・ラワーハ** رضي الله عنه が毎季、ハイバルのナツメヤシの収穫を見積もるために遣わされたと伝えています。ハイバルの住民は、手加減してもらおうと女性たちの装身具でかれを買収しようとしました。かれは言いました：「**アッラーにかけて、私は被造物の中で最も愛する御方のもとから来た。あなたがたは私が最も嫌う者たちだ。だが、あなたがたへの嫌悪もあの御方への愛も、私をあなたがたに不公正にさせることはない。**」かれらは言いました：「この（公正）によってこそ、天と地は成り立っている。」

参照：
『イマーム・マーリクのムワッタア』ムサーカーの書；『ムスナド・アフマド』。

教訓：取引における公正は、ムスリムであろうとなかろうと、**すべての人**に適用されます。この協定はウマル رضي الله عنه の時代まで続き、ウマルはのちにかれらを移住させました（『サヒーフ・ブハーリー』2285）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イスラーム経済における共同の原則

ハイバルの協定は、イスラーム経済における**利益とリスクの共有**という考え方の基礎となりました。ムサーカーとムザーラアでは、地主と耕作者が**ともにリスクを負います**。収穫が多ければ両者が得をし、少なければ両者が少なく受け取るのです。

同じ原則は今日、ムダーラバやムシャーラカのような**イスラーム金融**で用いられ、利子に基づく貸付と区別されています。教訓：経済の公正とは、**利益と損失を共に分かち合う**ことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サフィーヤ：捕虜から信者たちの母へ

ハイバルの捕虜の中に、ナディール族の指導者の娘**サフィーヤ・ビント・フヤイイ・ブン・アフタブ**がいました。父はクライザ族の出来事で殺され（第 13 巻）、夫はハイバルで殺されました。アッラーの使徒 ﷺ はかの女に選択を与え、かの女はイスラームを選びました。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は伝えています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 5086 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادٌ، عَنْ ثَابِتٍ، وَشُعَيْبِ بْنِ الْحَبْحَابِ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَعْتَقَ صَفِيَّةَ، وَجَعَلَ عِتْقَهَا صَدَاقَهَا.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ はサフィーヤを解放し、その解放をかの女のマハル（婚資）とされた。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ハンマード・ブン・ザイド ← サービト・アル＝ブナーニー と シュアイブ・ブン・アル＝ハブハーブ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』婚姻の書、女奴隷の解放をそのマハルとした者の章、ハディース第 5086 番；第 371 番、第 4200 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1365 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:5086

アッラーの使徒 ﷺ はサフィーヤを奴隷にされず、**解放され**、その解放をマハルとして結婚されました。かの女は**信者たちの母（ウンマハート・アル＝ムウミニーン）**の一人となりました。これはかの女を尊び、民の指導者の娘としての地位を回復させるものでした。

ハフサに「ユダヤ教徒の娘」と呼ばれてサフィーヤが泣いたとき、アッラーの使徒 ﷺ はかの女を慰められました：**「まことにあなたは預言者（ハールーン عَلَيْهِ السَّلَامُ）**

の子孫、おじは預言者（ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ）、そしてあなたは預言者の妻である。それなのに、かの女は何をあなたに誇るというのか。」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3894、アル＝アルバーニーはサヒーフと評価）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、すべてを失った女性を**尊ばれました**。

サフィーヤのための膝

アナス رضى الله عنه は、ハイバルからの帰り道、アッラーの使徒 ﷺ がラクダの上の自分の後ろにサフィーヤの席を用意され、それから**ラクダのそばに座って膝を差し出され**、サフィーヤはその膝に足を乗せてラクダに乗ったと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4211）。

一国の指導者が、家族を失ったばかりの妻のために膝を低くしたのです。教訓：妻への**優しさと敬意**はアッラーの使徒 ﷺ のスンナであり、弱さのしるしではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ジャアファルと船の人々

ハイバルが開かれた日は、長く待ちわびた一行の到着によって、いっそう喜ばしいものとなりました。**ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه と、十年以上前に**アビシニア**へ移住した教友たち（第 3 巻）がついに到着し、イエメンからのアブー・ムーサー・アル＝アシュアリーとその民も一緒でした。アブー・ムーサー رضى الله عنه は語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4230 番

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْعَلاَءِ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، حَدَّثَنَا بُرَيْدُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، عَنْ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ أَبِي مُوسَى - رضى الله عنه - قَالَ بَلَغَنَا مَخْرَجُ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَنَحْنُ بِالْيَمَنِ، فَخَرَجْنَا مُهَاجِرِينَ إِلَيْهِ أَنَا، وَأَخَوَانِ لِي أَنَا أَصْغَرُهُمْ، أَحَدُهُمَا أَبُو بُرْدَةَ، وَالآخَرُ أَبُو رُهْمٍ - إِمَّا قَالَ بِضْعٌ وَإِمَّا قَالَ - فِي ثَلاَثَةٍ وَخَمْسِينَ أَوِ اثْنَيْنِ وَخَمْسِينَ رَجُلاً مِنْ قَوْمِي، فَرَكِبْنَا سَفِينَةً، فَأَلْقَتْنَا سَفِينَتُنَا إِلَى النَّجَاشِيِّ بِالْحَبَشَةِ، فَوَافَقْنَا جَعْفَرَ بْنَ أَبِي طَالِبٍ فَأَقَمْنَا مَعَهُ حَتَّى قَدِمْنَا جَمِيعًا، فَوَافَقْنَا النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم حِينَ افْتَتَحَ خَيْبَرَ، وَكَانَ أُنَاسٌ مِنَ النَّاسِ يَقُولُونَ لَنَا - يَعْنِي لأَهْلِ السَّفِينَةِ - سَبَقْنَاكُمْ بِالْهِجْرَةِ، وَدَخَلَتْ أَسْمَاءُ بِنْتُ عُمَيْسٍ، وَهْىَ مِمَّنْ قَدِمَ مَعَنَا، عَلَى حَفْصَةَ زَوْجِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم زَائِرَةً، وَقَدْ كَانَتْ هَاجَرَتْ إِلَى النَّجَاشِيِّ فِيمَنْ هَاجَرَ، فَدَخَلَ عُمَرُ عَلَى حَفْصَةَ وَأَسْمَاءُ عِنْدَهَا، فَقَالَ عُمَرُ حِينَ رَأَى أَسْمَاءَ مَنْ هَذِهِ قَالَتْ أَسْمَاءُ بِنْتُ عُمَيْسٍ. قَالَ عُمَرُ الْحَبَشِيَّةُ هَذِهِ الْبَحْرِيَّةُ هَذِهِ قَالَتْ أَسْمَاءُ نَعَمْ. قَالَ سَبَقْنَاكُمْ بِالْهِجْرَةِ، فَنَحْنُ أَحَقُّ بِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنْكُمْ. فَغَضِبَتْ وَقَالَتْ كَلاَّ وَاللَّهِ، كُنْتُمْ مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يُطْعِمُ جَائِعَكُمْ، وَيَعِظُ جَاهِلَكُمْ، وَكُنَّا فِي دَارٍ أَوْ فِي أَرْضِ الْبُعَدَاءِ الْبُغَضَاءِ بِالْحَبَشَةِ، وَذَلِكَ فِي اللَّهِ وَفِي رَسُولِهِ صلى الله عليه وسلم وَايْمُ اللَّهِ، لاَ أَطْعَمُ طَعَامًا، وَلاَ أَشْرَبُ شَرَابًا حَتَّى أَذْكُرَ مَا قُلْتَ لِرَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَنَحْنُ كُنَّا نُؤْذَى وَنُخَافُ، وَسَأَذْكُرُ ذَلِكَ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَأَسْأَلُهُ، وَاللَّهِ لاَ أَكْذِبُ وَلاَ أَزِيغُ وَلاَ أَزِيدُ عَلَيْهِ.

訳：

アブー・ムーサー رضى الله عنه は言った：**預言者 ﷺ が（移住のために）出発されたという知らせは、私たちがイエメンにいたときに届いた。私たちは使徒のもとへ移住しようと出発した — 私と二人の兄弟……そして私の民の五十数人と共に。私たちは船に乗ったが、船は私たちをアビシニアのナジャーシーのもとへ運んだ。そこで私たちはジャアファル・ブン・アビー・ターリブと出会い、共に暮らした。そしてついに皆で（マディーナへ）来て、預言者 ﷺ がハイバルを開かれたときにお会いしたのである。**ある人々は私たち（船の人々）に「私たちは移住であなたがたに先んじた」と言った。私たちと一緒に来たアスマー・ビント・ウマイスがハフサを訪ねていると、ウマルが入って来て言った：「私たちは移住であなたがたに先んじた。だから私たちの方が、あなたがたよりアッラーの使徒 ﷺ に近い権利がある」。アスマーは怒って言った：「**いいえ、アッラーにかけて！あなたがたはアッラーの使徒 ﷺ と共にいて、使徒はあなたがたの中の飢えた者に食べさせ、無知な者を諭しておられた。一方、私たちはアビシニアという遠く疎まれた地にいた — それはすべてアッラーとその使徒 ﷺ のためだったのです。**」かの女は、嘘も偽りも付け足しもせず、それを預言者 ﷺ にお伝えすると誓った。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝アラー ← アブー・ウサーマ ← ブライド・ブン・アブドゥッラー ← アブー・ブルダ ← アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハイバルの戦いの章、ハディース第 4230〜4231 番；『サヒーフ・ムスリム』第 2502〜2503 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4230

「あなたがたには二つのヒジュラがある」

アスマー・ビント・ウマイスは、ウマルの言葉をアッラーの使徒 ﷺ にお伝えしました。使徒は言われました：「**かれは、あなたがた以上に私に近い権利があるわけではない。かれとその仲間には一つのヒジュラ（移住）があるが、あなたがた — 船の人々 — には二つのヒジュラがある。**」アスマーは言いました：アブー・ムーサーと船の人々が、このハディースについて尋ねに次々と私のもとに来ました。**この世のどんなものも、かれらをそれ以上に喜ばせはしなかった**のです（『サヒーフ・ブハーリー』4231）。

> **スィーラの注：「どちらがより嬉しいか分からない」**
>
> スィーラ書は、ジャアファルが到着したとき、アッラーの使徒 ﷺ がかれを抱きしめ、額に口づけして言われたと伝えています：「ハイバルが開かれたことと、ジャアファルが来たことと、どちらがより嬉しいか分からない」。この伝承は**一部の学者によってハサン（良好）と評価され**、スィーラ書でよく知られています。
>
> **参照：**
> アル＝ハーキム『補遺（アル＝ムスタドラク）』；アッ＝タバラーニー；イブン・ヒシャーム『預言者伝』。

教訓：アビシニアの人々の忍耐 — アッラーの使徒 ﷺ から遠く離れた異国での長い年月 — は**無駄にはなりませんでした**。アッラーとその使徒は、人々の目に見えない犠牲を評価されるのです。アスマーの言葉は、真実を誠実に守る**女性の勇気**をも示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルに着いたアブー・フライラ

ハイバルに着いたもう一人は、イエメンのダウス族の男で、のちにイスラーム史上**最も多くのハディースを伝えた者**となった**アブー・フライラ** رضى الله عنه です。かれ自身が言っています：「**私は、人々がハイバルを開いた後に、ハイバルにいるアッラーの使徒** ﷺ **のもとに来た。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4237）。

アブー・フライラがアッラーの使徒 ﷺ と共にいたのは約 **4 年**だけでしたが、かれは **5,000 以上のハディース**を伝えました。かれはその秘密を説明しています：「人々はアブー・フライラが多く伝えすぎると言う……私たちの兄弟である移住者たちは市場での商売に忙しく、援助者たちは自分の財産に忙しかった。一方アブー・フライラは、**空腹のまま、いつもアッラーの使徒** ﷺ のそばにいた」（『サヒーフ・ブハーリー』118）。

教訓：**短い期間**でも、心を尽くして用いれば大きな知識を実らせます。今日私たちが学ぶハディースの多くは、ハイバルに着いたこの人を通して届いたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブー・フライラの母のための祈り

アブー・フライラの母はまだイスラームに入っていませんでした。ある日、かの女がアッラーの使徒 ﷺ についてひどいことを言ったので、アブー・フライラは泣きながら来て、使徒に母のために祈ってほしいと頼みました。アッラーの使徒 ﷺ は祈られました：「**アッラーよ、アブー・フライラの母を導いてください。**」アブー・フライラが家に帰ると、母は身を清め、二つの信仰告白を唱えていました（『サヒーフ・ムスリム』2491）。

教訓：**親孝行**には、たとえ親が私たちの心を傷つけても、忍耐と愛情をもってその導きを祈ることも含まれます。

毒入りの羊の肉

ハイバルが開かれた後、アッラーの使徒 ﷺ の暗殺が試みられました。一人のユダヤ教徒の女性**ザイナブ・ビント・アル＝ハーリス**（スィーラ書による）が、毒を盛った焼いた羊を贈ったのです。アブー・フライラ رضى الله عنه は伝えています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3169 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، قَالَ حَدَّثَنِي سَعِيدٌ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا فُتِحَتْ خَيْبَرُ أُهْدِيَتْ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم شَاةٌ فِيهَا سُمٌّ فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم اجْمَعُوا إِلَىَّ مَنْ كَانَ هَا هُنَا مِنْ يَهُودَ. فَجُمِعُوا لَهُ فَقَالَ إِنِّي سَائِلُكُمْ عَنْ شَىْءٍ فَهَلْ أَنْتُمْ صَادِقِيَّ عَنْهُ. فَقَالُوا نَعَمْ. قَالَ لَهُمُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَنْ أَبُوكُمْ. قَالُوا فُلاَنٌ. فَقَالَ كَذَبْتُمْ، بَلْ أَبُوكُمْ فُلاَنٌ. قَالُوا صَدَقْتَ. قَالَ فَهَلْ أَنْتُمْ صَادِقِيَّ عَنْ شَىْءٍ إِنْ سَأَلْتُ عَنْهُ فَقَالُوا نَعَمْ يَا أَبَا الْقَاسِمِ، وَإِنْ كَذَبْنَا عَرَفْتَ كَذِبَنَا كَمَا عَرَفْتَهُ فِي أَبِينَا. فَقَالَ لَهُمْ مَنْ أَهْلُ النَّارِ. قَالُوا نَكُونُ فِيهَا يَسِيرًا ثُمَّ تَخْلُفُونَنَا فِيهَا. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم اخْسَئُوا فِيهَا، وَاللَّهِ لاَ نَخْلُفُكُمْ فِيهَا أَبَدًا ـ ثُمَّ قَالَ ـ هَلْ أَنْتُمْ صَادِقِيَّ عَنْ شَىْءٍ إِنْ سَأَلْتُكُمْ عَنْهُ. فَقَالُوا نَعَمْ يَا أَبَا الْقَاسِمِ. قَالَ هَلْ جَعَلْتُمْ فِي هَذِهِ الشَّاةِ سُمًّا. قَالُوا نَعَمْ. قَالَ مَا حَمَلَكُمْ عَلَى ذَلِكَ. قَالُوا أَرَدْنَا إِنْ كُنْتَ كَاذِبًا نَسْتَرِيحُ، وَإِنْ كُنْتَ نَبِيًّا لَمْ يَضُرَّكَ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った：**ハイバルが開かれたとき、預言者 ﷺ に毒の入った（料理された）羊が贈られた。**預言者 ﷺ は言われた：「ここにいるユダヤ教徒たちを私のもとに集めなさい」。かれらが集められると、使徒はいくつか質問をされ、最後に尋ねられた：「**あなたがたはこの羊に毒を入れたのか**」かれらは「はい」と答えた。使徒は「何があなたがたをそうさせたのか」と尋ねられた。かれらは答えた：「**もしあなたが嘘つきなら、私たちはあなたから解放される。もしあなたが預言者なら、それはあなたを害さないだろうと思ったのです。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← アッ＝ライス・ブン・サアド ← サイード・アル＝マクブリー ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』人頭税と休戦の書、ハディース第 3169 番；第 4249 番、第 5777 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3169

かれらの答えは驚くべきものでした。毒は**預言者であるかどうかの試し**だったのです。本当に預言者なら、毒は害を与えないはずだというのです。別の伝承でアナスは、その女性が使徒のもとに連れて来られて「あなたを殺したかった」と言ったと述べています。使徒は「アッラーはあなたに私を害する力を与えられない」と言われました。教友たちが「かの女を殺しましょうか」と尋ねると、使徒は答えられました：「**いや。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2617）。

スィーラの注：ビシュル・ブン・アル＝バラー

スィーラ書によれば、教友の一人**ビシュル・ブン・アル＝バラー・ブン・マアルール**もその肉を食べ、そのために亡くなりました。一部の伝承では、その女性はのちにビシュルの死のために**キサース（同害報復）**を受けたとされます。学者たちはこれらの伝承を調和させています：使徒はご自身に対する行為のためにはかの女を罰されませんでしたが、ビシュルの命のために刑が科されたのです。

参照：

『スナン・アビー・ダーウード』4509〜4512；イブン・ハジャル『バーリーの開示（ファトフ・アル＝バーリー）』。https://sunnah.com/abudawud:4512

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、たとえ暗殺の企てであっても、ご自身に対する過ちは**赦されました**。しかし他者の権利は守られたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

生涯の終わりまで残った毒の影響

アッラーの使徒 ﷺ はその肉を少しかんだだけで吐き出されました。しかしその影響は体に残りました。ほぼ 4 年後、亡くなられる原因となった病の中で、アーイシャ رضى الله عنها は使徒がこう言われるのを聞きました：

「アーイシャよ、私はハイバルで食べたもののせいで、今も痛みを感じている。今こそ、その毒のために私の大動脈（アル＝アブハル）が断たれるのを感じる時だ。」（『サヒーフ・ブハーリー』4428）。

イブン・マスウード رضى الله عنه をはじめとする学者たちは、アッラーの使徒 ﷺ がその毒の影響によって**殉教者**として亡くなられたと述べています。アッラーは使徒のために、預言者としての栄誉と殉教の栄誉をともに集められたのです。

項目	説明
奇跡	肉が使徒に毒入りであることを「告げた」（アブー・ダーウードの伝承）
守り	アッラーはその女性に使徒を殺す力を与えられなかった
長く続いた影響	生涯の終わりまで痛みを感じられた（4428）
栄誉	使徒は殉教者として亡くなられた（一部の学者の見解）

教訓：アッラーの使徒 ﷺ もまた、痛みを感じ、何年も試練の影響に耐えた**人間**でした。それでも使徒は生涯の終わりまで、忍耐をもってメッセージを伝え続けられたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ファダクとファイの財

ハイバル陥落の知らせが広まると、近くのオアシス**ファダク**の住民は**戦わずに降伏し**、土地の収穫の半分を条件に和平を求めました（スィーラ書）。戦いなしに得られた財は**ファイ**と呼ばれ、その規定は戦利品とは異なります：

「アッラーが町の住民から、その使徒に（戦わずに）返し与えられたものは、アッラーと使徒、近親者、孤児、貧者、旅人のものである」『イブン・カスィール注釈』59:7。

この節は、その知恵をはっきりと述べています：**「それがあなたがたの中の富裕な者たちの間だけで回るものとならないように」**。ファイの財は、アッラーの使徒 ﷺ の家族の必要にあてられ、残りは**公共の利益** — 貧者、孤児、旅人 — のために用いられました。

教訓：イスラームは初めから**経済の公正の原則**を定めています。財産は一握りの富裕者に集まってはならず、必要とする人々へと流れなければならないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戦利品の分配

ハイバルの戦利品は、バドルの戦いの後に下された規定に従って分配されました：**「あなたがたが得た戦利品は、何であれその五分の一はアッラーと使徒のものであることを知れ」**『イブン・カスィール注釈』8:41。

五分の一（**フムス**）はアッラーとその使徒、そして節に述べられた人々のためのもので、五分の四は兵士たちに分配されました。イブン・ウマル رضى الله عنهما は、ハイバルの日にアッラーの使徒 ﷺ が**馬に二人分**、**騎乗者に一人分**の取り分を与えられたと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4228）。

ハイバルの土地は二つに分けられました。半分は公共の必要と客人のために、残りの半分は**フダイビーヤの人々**に分配されました（『スナン・アビー・ダーウード』3010）。その影響は大きく、それまで援助者に頼っていた移住者たちが、自分の収入源を持つようになりました。アーイシャ رضى الله عنها は言いました：**「ハイバルが開かれたとき、私たちは『これでナツメヤシの実でお腹いっぱいになれる』と言った。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4242）。

教訓：兵士、馬、公共の利益、弱い人々 — **公正な分配の仕組み**が、勝利の恩恵を一握りの人ではなく社会全体に行き渡らせたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

宗教に強制なし

勝利の後、アッラーの使徒 ﷺ はハイバルの住民にイスラームを**強制されませんでした**。かれらは自分の宗教を保ち、土地を耕し、協定のもとで暮らしました。これは、アッラーの次の言葉の実践です：

「宗教には強制があってはならない。正に正しい道は迷誤から明らかに（分別）されている」『イブン・カスィール注釈』2:256。

アッラーの使徒 ﷺ がアリーに与えた指示—「**イスラームへと呼びかけなさい**」—は呼びかけであって、強制ではありません。ハイバルの戦いは、マディーナに対する**軍事的脅威**を止めるためのもので、誰かに改宗を強いるためのものではありませんでした。サフィーヤのようにイスラームを選んだ人々は、自らの意思で選んだのです。

教訓：公正、守られた協定、そして**信教の自由** — これこそが勝利の後のイスラームの姿であり、ハイバルで示されたものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「ハイバルまで、私たちは満腹したことがなかった」

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は言いました：「**私たちはハイバルを開くまで、満腹したことがなかった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4243）。何年もの間、教友たちは窮乏の中で暮らしてきました — ハンダクでは腹に石を縛り（第 12 巻）、フダイビーヤでは飢えに耐えました — そしてついにアッラーはハイバルを通して糧を開かれたのです。

教訓：「本当に困難と共に安楽がある」（胸を広げる章 94:6）。窮乏の中での忍耐は、最後には**ゆとりによって報われ**、そしてゆとりは**感謝と誠実さ**によって試されるのです。

ハイバル協定の終わり

収穫折半の協定は、アッラーの使徒 ﷺ とアブー・バクル رضى الله عنه の時代を通じて続きました。ウマル رضى الله عنه の時代には、ハイバルでアブドゥッラー・ブン・ウマルが襲われ、手足を脱臼させられるなど、いくつかの出来事が起こりました。ウマルはそこで、もとの協定にあった「アッラーが望まれる限り、あなたがたをとどめおく」という言葉に基づいて、かれらを移住させました（『サヒーフ・ブハーリー』2730）。

ウマル رضى الله عنه はかれらに、**果実の収穫の価値**を、お金、ラクダ、品物の形で支払いました（『サヒーフ・ブハーリー』2730）。教訓：協定を終えるときでさえ、相手の**財産の権利**は公正に支払われるのです。

ハイバルの物語の典拠

ハイバルの物語は、確かさの度合いが異なる三種類の典拠を通して私たちに届いています。本書は、読者が**何が確かか**、**何がよく知られているだけか**を分かるように、この三つを区別しています：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルの物語の典拠

クルアーン（5）

- 近い勝利と戦利品（48:18–21）
- 戦利品の横領の禁止（3:161）
- 戦利品の分配（8:41）
- ファイの財（59:6–7）
- 宗教に強制なし（2:256）

真正なハディース（10）

- 朝の「ハイバルは滅びた」
- アリーへの旗；目が癒える
- 赤いラクダにまさる導き
- 行いは最期によって決まる
- 外套と靴ひもは火から
- 飼いロバの肉の禁止
- 収穫折半の協定
- サフィーヤの解放
- ジャアファルと船の人々；二つのヒジュラ
- 毒入りの肉

スィーラ書（3）

- 砦の名と順序
- アリーが砦の門を持ち上げた話（弱い伝承）
- ファダクが戦わずに降伏

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：本書におけるハイバルの物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
近い勝利；グルール；フムス；ファイ；強制なし	クルアーン（48:18–21；3:161；8:41；59:6–7；2:256） — 確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠と等級
「ハイバルは滅びた」；旗；アリー；最期；外套；ロバ	『サヒーフ・ブハーリー』4196〜4234 — 真正
収穫折半；サフィーヤ；ジャアファル；アブー・フライラ；毒	『サヒーフ・ブハーリー』2285、5086、4230〜4237、3169、4428 — 真正
マルハブはアリーに倒された	『サヒーフ・ムスリム』1807 — 真正
「預言者の子孫」；イブン・ラワーハの収穫の見積もり	『ジャーミウ・ティルミズィー』3894；『マーリクのムワッタア』 — サヒーフ／ハサン
砦の名；兵の数；ファダク；砦の門	スィーラ書 — よく知られる；砦の門の話は弱い

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

ハイバルからの帰路

これまでの章では、ハイバルそのものでの戦い、協定、出来事を語ってきました。この章では、ハイバルが開かれた後、アッラーの使徒 ﷺ と教友たちがふたたびウフドの山を目にするまでの旅をたどります。この旅には、ズィクル、礼拝、そして故郷への愛についての、真正に伝えられたいくつかの小さな教えがあります。

「あなたがたは耳の聞こえない者に呼びかけているのではない」

ハディース：タクビールの声を低くする

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がハイバルへ向かわれたとき、人々がある谷を登りながら声を張り上げてタクビールを唱えたと伝えています：「アッラーフ・アクバル、アッラーフ・アクバル、ラー・イラーハ・イッラッラー」。アッラーの使徒 ﷺ は言われました：「自分自身をいたわりなさい。あなたがたは耳の聞こえない者にも、不在の者にも呼びかけているのではない。あなたがたが呼びかけているのは、全てを聞き、近くにおられる御方であり、その御方はあなたがたと共におられる」。それから使徒はアブー・ムーサーに「ラー・ハウラ・ワラー・クウワタ・イッラー・ビッラー（アッラーによらなければ、いかなる力も強さもない）」という言葉を教え、それを楽園の宝の一つと呼ばれました。

等級：サヒーフ ― 『サヒーフ・ブハーリー』4205。

このハディースは、ズィクルの作法を教えています。アッラーは近くにおられ、全てを聞かれるので、叫ぶ必要はありません。また、軍事行動のさなかにあっても、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちに心の事柄を教え続けられたことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

日が昇るまで眠ってしまった夜

ハディース：逃した夜明けの礼拝

アブー・フライラ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がハイバルの遠征から戻られる途中、眠くなるまで夜通し進み、休むために止まられたと伝えています。使徒はビラールに「今夜、私たちのために見張っていなさい」と言われました。ビラールは定められただけ礼拝し、それから夜明けの方角を向いてラクダにもたれかかり、眠り込んでしまいました。アッラーの使徒 ﷺ を含め、誰も目を覚まさず、ついに日の光がかれらに当たりました。使徒はその場所から移るよう命じ、それから清めをして、ビラールにイカーマを唱えさせ、皆と共に夜明けの礼拝をされました。礼拝の後、使徒は「礼拝を忘れた者は、思い出したときにそれを行いなさい」と言われ、「われを念じるために礼拝を守れ」（ター・ハー章 20:14）を唱えられました。

等級：サヒーフ ― 『サヒーフ・ムスリム』680。

学者たちはこの出来事を「ライラト・アッ＝タアリース」（夜の休息の夜）と呼んでいます。ここから、眠りや物忘れによって逃した礼拝は、思い出したらすぐに償わなければならないという規定が導かれます。また、意図せず眠ってしまうことは罪ではないことも示しています。アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、ウンマに教えるためにそれを経験されたのです。

ワーディー・アル＝クラーとタイマー

帰り道、アッラーの使徒 ﷺ はワーディー・アル＝クラーに立ち寄られました。ミドアムという奴隷が矢で殺され、使徒が戦利品から取られた外套について語られたのはそこでした（第 10 章）。スィーラ書によれば、ワーディー・アル＝クラーの住民は服従させられ、ハイバルと同様の協定を与えられました。一方タイマーの住民は戦わずに和平を求め、ジズヤ（人頭税）を払って自分たちの財産を保ちました（イブン・ヒシャーム；アル＝ワーキディー）。これらの詳細はスィーラ書によるもので、真正なハディースによるものではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

「これは私たちを愛し、私たちも愛する山である」

ハディース：ウフドとマディーナの聖域

アッラーの使徒 رضى الله عنه に仕えるためにハイバルへ出かけたアナス・ブン・マーリク ﷺ は、使徒が帰途につき、ウフドの山が見えてきたとき、こう言われたと伝えています：「これは私たちを愛し、私たちも愛する山である」。それから使徒はマディーナの方を指し示して祈られました：「アッラーよ、私はその二つの黒い溶岩原の間を聖域とします。イブラーヒームがマッカを聖域とされたように」。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』2889。

ウフドは 70 人の教友が殉教した場所です（第 10 巻）。それでもアッラーの使徒 ﷺ はそこを悲しみの山とは見ず、愛される山とされました。苦闘の思い出に満ちた場所を愛することは、イスラームが認める人の本性（フィトラ）の一部なのです。

時期	出来事	典拠
ハイバルへの出発	声を低くしたタクビール；「ラー・ハウラ・ワラー・クウワタ・イッラー・ビッラー」	『サヒーフ・ブハーリー』4205
ワーディー・アル＝クラー	ミドアムの死；戦利品から取った外套	『サヒーフ・ブハーリー』4234；スィーラ書
タイマー	戦わずに和平	スィーラ書
夜の行軍の中で	日が昇るまで眠る；礼拝の償い	『サヒーフ・ムスリム』680
ウフドを望む	「私たちを愛する山」；マディーナの聖域	『サヒーフ・ブハーリー』2889

教訓

ハイバルからの帰路は、勝利がアッラーの使徒 ﷺ を教育からそらすことはなかったと教えています。ズィクルは作法と共に教えられ、眠り込んだ過ちは法規定の教え

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

となり、ウフドの苦い思い出は愛へと変えられました。成功したムスリムも謙虚であり続け、礼拝を守り、苦闘の地を大切にするのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルからの法規定

ハイバルは戦場であっただけでなく、今日まで実践されているいくつかの規定が定められた場所でもあります。第 11 章と第 12 章では、飼いロバの肉と収穫折半の協定を扱いました。この章では、ハイバルの日に起きた、あるいはそれに関係する、真正に伝えられた他の規定をまとめます。

ムトア婚の禁止

> **ハディース：ハイバルの日の禁止**
>
> アリー・ブン・アビー・ターリブ رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がハイバルの日に女性とのムトア婚を禁じ、飼いロバの肉を食べることを禁じられたと伝えています。
>
> 等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』4216；『サヒーフ・ムスリム』1407 にも。

ムトア婚とは、一定の期間と一定の対価で結ばれ、その期間が終わると自動的に終わる結婚です。イスラームの初期に一定の状況で許されたことがありましたが、のちに禁じられました。サブラ・アル＝ジュハニーの伝承では、アッラーの使徒 ﷺ は、アッラーがそれを「復活の日まで」禁じられたと言われています（『サヒーフ・ムスリム』1406）。これがスンナとジャマーアの民（アフル・アッ＝スンナ・ワル＝ジャマーア）の立場です：ムトア婚は永久に禁じられています。

学者たちは、その禁止の時期について議論しています。サブラの伝承はマッカ解放に言及し、アリーの伝承はハイバルに言及しているからです。ある学者たちは、ハイバルで禁じられ、マッカ解放の際に一時的に許され、その後永久に禁じられたと考えます。また別の学者たちは、アリーの伝承の「ハイバルの日」はロバの肉の禁止だけを指すと考えます（イブン・ハジャル『バーリーの開示』）。この違いは時期についてであって、規定についてではありません。規定は変わらず禁止です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：60 / 80

ニンニクとモスク

ハディース：「私たちのモスクに近づいてはならない」

イブン・ウマル رضى الله عنهما は、預言者 ﷺ がハイバルの遠征で言われたと伝えています：「この植物 — つまりニンニク — を食べた者は、私たちのモスクに近づいてはならない」。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』853；『サヒーフ・ムスリム』561 にも。

ニンニクを食べること自体は禁じられていません。禁じられているのは、他の人々や天使を不快にさせる匂いをさせてモスクに来ることです。学者たちは、たばこの匂いのように、礼拝者を不快にさせるあらゆる悪臭をこれに類推しています。

金とビーズの首飾り

ハディース：12 ディーナールで買った首飾り

ファダーラ・ブン・ウバイド رضى الله عنه は言いました：ハイバルの日、私は 12 ディーナールで首飾りを買った。そこには金とビーズがついていた。私がそれを分けてみると、金は 12 ディーナールより多かった。私がそのことを預言者 ﷺ に話すと、使徒は言われた：「分けるまでは売ってはならない」。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ムスリム』1591。

このハディースは、金と金の交換は同じ重さでなければならないという規定の基礎となっています。金を含む混ざった品を金で売るなら、リバー（利息・不当利得）が生じないよう、金の部分が明らかでなければなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ジャニーブのナツメヤシとジャムウのナツメヤシ

ハディース：「そうしてはならない」

アブー・サイード・アル＝フドリーとアブー・フライラ رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がハイバルに一人の男を任命し、その男が上質のジャニーブのナツメヤシを持って来たと伝えています。使徒は「ハイバルのナツメヤシはみなこのようなのか」と尋ねられました。かれは答えました：「いいえ、アッラーにかけて。私たちはこれを一升、（並のものを）二升と交換し、二升を三升と交換しています」。使徒は言われました：「そうしてはならない。混ざったナツメヤシをディルハムで売り、それからそのディルハムでジャニーブのナツメヤシを買いなさい」。

等級：サヒーフ — 『サヒーフ・ブハーリー』2201、2202；『サヒーフ・ブハーリー』4244〜4245 にも。

ナツメヤシとナツメヤシのような、同じ種類のリバー物品の交換は、質が違っても、同じ量で、その場で行わなければなりません。アッラーの使徒 ﷺ はただ禁じるだけでなく、許された道を示されました。まずお金で売り、それから買うことです。

法規定のまとめ

規定	根拠	備考
ムトア婚は禁止	『サヒーフ・ブハーリー』4216；『サヒーフ・ムスリム』1406、1407	復活の日まで禁止
飼いロバの肉は禁止	『サヒーフ・ブハーリー』4216、4217	第 11 章
ニンニクを食べた後はモスクに行かない	『サヒーフ・ブハーリー』853	その食べ物自体は禁止ではない
金と金は同じ重さで	『サヒーフ・ムスリム』1591	リバーの規定の基礎
ナツメヤシとナツメヤシは同じ量で	『サヒーフ・ブハーリー』2201〜2202	お金で売り、それから買う

規定	根拠	備考
ムサーカーとムザーラア（収穫の分かち合い）	『サヒーフ・ブハーリー』2285	第 12 章
騎兵の取り分	『サヒーフ・ブハーリー』4228	第 19 章

教訓

ハイバルの規定は、結婚、食べ物、モスクの作法、売買にまで及んでいます。これは、イスラームの教えが日々の暮らしから切り離されたものではなく、戦場においてさえそうであることを示しています。ムスリムは、許されたことと禁じられたことが自分のあらゆる事柄に関わること、そしてアッラーの使徒 ﷺ が禁じられた道を閉ざすとき、常に許された道を開いてくださったことを学ぶのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルの戦いの人物

次の表は、ハイバルの物語の主な人物、その部族、そしてそれぞれの役割をまとめたものです。スィーラ書による情報ははっきりと示しています。

ムスリム側

人物	部族	役割	典拠
アリー・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族（ハーシム家）	旗の担い手；砦を開く	『サヒーフ・ブハーリー』4210
アーミル・ブン・アル＝アクワウ	アスラム族	行軍中に詩を吟じる；ハイバルで倒れる	『サヒーフ・ブハーリー』4196
サラマ・ブン・アル＝アクワウ	アスラム族	アーミルの詩とマルハブの話の伝承者	『サヒーフ・ムスリム』1807
マフムード・ブン・マスラマ	アウス	ハイバルで殉教	スィーラ書
ムハンマド・ブン・マスラマ	アウス	マフムードの兄弟；イブン・イスハークによればマルハブを倒した	スィーラ書
ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ	クライシュ族（ハーシム家）	船の人々と共にアビシニアから到着	『サヒーフ・ブハーリー』4230
アスマー・ビント・ウマイス	ハスアム族	ジャアファルの妻；「二つのヒジュラ」	『サヒーフ・ブハーリー』4230
アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー	アシュアル族（イエメン）	船の人々；タクビールの話の伝承者	『サヒーフ・ブハーリー』4205、4230
アブー・フライラ	ダウス族	ハイバルが開かれた後に到着	『サヒーフ・ブハーリー』4237

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	部族	役割	典拠
アブドゥッラー・ブン・ラワーハ	ハズラジュ	ハイバルのナツメヤシの収穫を見積もる	『マーリクのムワッタア』
ビシュル・ブン・アル＝バラー・ブン・マアルール	ハズラジュ族（サリマ家）	毒入りの肉を食べた後に亡くなる	スィーラ書
アナス・ブン・マーリク	ハズラジュ族（ナッジャール家）	アッラーの使徒 ﷺ の従者；多くのハイバルの話の伝承者	『サヒーフ・ブハーリー』2889

ハイバル側

人物	出自	役割	典拠
マルハブ	ハイバルのユダヤ教徒	砦の勇士；一騎打ちで倒される	『サヒーフ・ムスリム』1807
サフィーヤ・ビント・フヤイイ	ナディール族	解放された捕虜；信者たちの母	『サヒーフ・ブハーリー』5086
キナーナ・ブン・アッ＝ラビーウ	ナディール族	サフィーヤの夫；ハイバルで殺される	スィーラ書
ザイナブ・ビント・アル＝ハーリス	ハイバルのユダヤ教徒	毒入りの羊を贈った女性	『サヒーフ・ブハーリー』2617；名はスィーラ書による
サッラーム・ブン・ミシュカム	ナディール族	ザイナブの夫；ハイバルの指導者の一人	スィーラ書

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：マルハブを倒したのは誰か

サラマ・ブン・アル＝アクワウによる『サヒーフ・ムスリム』1807 は、マルハブの頭に切りつけたのはアリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه であるとはっきり述べています。一方イブン・イスハークは、兄弟マフムードの死の報いとして、ムハンマド・ブン・マスラマがかれを倒したと伝えています。学者たちは、伝承経路がより強い『サヒーフ・ムスリム』の伝承を優先しています（イブン・ハジャル『バーリーの開示』；『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』）。

教訓

ハイバルにいた教友たちは、クライシュ、アウス、ハズラジュ、アスラム、ダウス、ハスアム、そしてイエメンのアシュアル族など、さまざまな部族の出身でした。イスラームはかれらを一つの列にまとめたのです。相手側では、もとは捕虜だったサフィーヤが信者たちの母となりました。これらの人物の物語は、栄誉が血筋ではなく、信仰と行いによって量られることを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルの昔と今

ハイバルは、サウジアラビアのマディーナ州、マディーナの北約 150 km にあります（Wikipedia「Khaybar」）。ハッラト・ハイバルと呼ばれる火山の溶岩地帯に囲まれたオアシスです。豊富な地下水がナツメヤシ園を肥沃にし、そのためにアッラーの使徒 ﷺ の時代には豊かな農業の中心地でした（第 1 章）。

考古学の発見

ギヨーム・シャルルーが率いるフランスとサウジアラビアの考古学調査は、かつてハイバルのオアシスを囲んでいた全長約 14.5 km の石の城壁を発見しました。これは青銅器時代、約 4,000 年前に築かれたものです。同じ調査団は、オアシスの中でアル＝ナターフという小さな町も見つけました。約 50 軒の家と最大 500 人ほどの住民がおり、紀元前 2400 年ごろに人が住み、約千年後に放棄されました。この研究は 2024 年に学術誌『PLOS ONE』に発表されました（ScienceAlert「Ancient Town From 4,000 Years Ago Found Hidden in Saudi Arabian Oasis」；Arab News）。

この発見は、アッラーの使徒 ﷺ の時代よりはるかに古く、ハイバルの戦いの約 2,700 年前のものです。第 5 章で語った砦ではありません。しかしそれは、ハイバルが太古の昔から人が住み、守りを固めたオアシスであったこと、そしてそこで城壁や砦を築く伝統がとても古いことを示しています。

当時の砦 ― アッラーの使徒 ﷺ

スィーラ書は、ナーイム、アル＝カムース、アル＝ワティーフ、アッ＝スラーリムなどの砦の名を挙げています（第 5 章）。今日ハイバルには、地元の人々に「マルハブの砦」として知られる丘の上の古い要塞があります。しかし現在見られる建物は時代を経て何度も修復されており、それがアッラーの使徒 ﷺ の時代のままの建物であるとは確かめられません。そのため本書では、それぞれの砦の正確な位置を定めていません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

項目	説明	評価
位置	マディーナの北約 150 km	現在の地理
地形	ハッラト・ハイバル溶岩地帯の中のオアシス	地質
青銅器時代の城壁	約 14.5 km、約 4,000 年前	2024 年の考古学調査
アル＝ナターフの町	紀元前 2400 年ごろ；住民約 500 人	『PLOS ONE』2024 年
砦の名	ナーイム、アル＝カムース、アル＝ワティーフ、アッ＝スラーリム	スィーラ書
今日のマルハブの砦	丘の上の古い要塞；何度も修復	当初の建物かどうかは確かめられない

教訓

全長 14.5 km の城壁と堅固な砦も、アッラーの定めを防ぐことはできませんでした。クルアーンは、自分たちの砦がアッラーから自分たちを守ってくれると思っていた者たちのことを思い起こさせています（集合章 59:2）。考古学の発見は、文明が興っては去っていくこと、そして残るのはアッラーに受け入れられた行いだけであることを思い起こさせます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルの戦いの年表

次の表は、ハイバルの出来事を順に並べたものです。スィーラ書による日付はおおよそのもので、学者たちの間でいくつかに見解の違いがあります。

時期	出来事	典拠
ヒジュラ暦6年ズル＝カアダ月	フダイビーヤの和約；勝利章が近い勝利を約束する	勝利章 48:18–20
ヒジュラ暦6年ズル＝ヒッジャ月	アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに戻り、数週間とどまる	スィーラ書
ヒジュラ暦7年ムハッラム月	フダイビーヤの人々と共にハイバルへ出発	イブン・イスハーク；多数派の見解
旅の途中	アーミル・ブン・アル＝アクワウの詩；声を低くしたタクビール	『サヒーフ・ブハーリー』4196、4205
最初の朝	「ハイバルは滅びた！」	『サヒーフ・ブハーリー』4197
数日間	砦が包囲され、一つずつ開かれる	スィーラ書
旗の日	アリーに旗が渡される；マルハブが倒される	『サヒーフ・ブハーリー』4210；『サヒーフ・ムスリム』1807
勝利の後	ロバの肉とムトア婚の禁止	『サヒーフ・ブハーリー』4216
勝利の後	収穫折半の協定	『サヒーフ・ブハーリー』2285
勝利の後	サフィーヤが解放され、妻となる	『サヒーフ・ブハーリー』5086
勝利の後	ジャアファルと船の人々が到着；アブー・フライラが到着	『サヒーフ・ブハーリー』4230、4237
勝利の後	羊の肉による毒殺の企て	『サヒーフ・ブハーリー』2617、3169

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	典拠
勝利の後	ファダクが戦わずに降伏	スィーラ書；集合章 59:6
帰途	ワーディー・アル＝クラー；タイマーとの和平	『サヒーフ・ブハーリー』4234；スィーラ書
帰途	日が昇るまで眠る；夜明けの礼拝を償う	『サヒーフ・ムスリム』680
マディーナに到着	「これは私たちを愛する山である」	『サヒーフ・ブハーリー』2889
毎季	アブドゥッラー・ブン・ラワーハがナツメヤシの収穫を見積もる	『マーリクのムワッタア』
ヒジュラ暦 11 年	アッラーの使徒 ﷺ が最後の病の中でハイバルの毒の影響に触れる	『サヒーフ・ブハーリー』4428
ウマルの時代	ハイバルの住民がタイマーとアリーハーへ移される	『サヒーフ・ブハーリー』2338、2730

教訓

この年表は、勝利章におけるアッラーの約束が、フダイビーヤのわずか数週間後に果たされたことを示しています。また、ある出来事の影響が長く続くこともあることを示しています。ハイバルの毒はアッラーの使徒 ﷺ の生涯の終わりまで感じられ、ハイバルの協定はウマル رضي الله عنه の時代まで続いたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハイバルの戦いについてのよくある質問

1. ハイバルの戦いはいつ起きたのですか。

イブン・イスハークと多くのスィーラ学者によれば、ヒジュラ暦7年ムハッラム月、フダイビーヤから戻って数週間後です。イマーム・マーリクは、ヒジュラ暦6年であったとしています。イブン・ハジャルは、この違いはヒジュラ暦の年の始まりの数え方によるものだと説明しています（『バーリーの開示』）。

2. なぜフダイビーヤの人々だけがハイバルへ連れて行かれたのですか。

アッラーがハイバルの戦利品をかれらに約束されたからです（勝利章 48:15、20）。フダイビーヤに残留した者たちは同行を許されませんでした（第 15 巻、第 24 章）。アビシニアからの船の人々には、敬意のしるしとして取り分が与えられました。

3. マルハブを倒したのは誰ですか。

『サヒーフ・ムスリム』1807 はアリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه を挙げています。イブン・イスハークはムハンマド・ブン・マスラマを挙げています。学者たちは『サヒーフ・ムスリム』の伝承を優先しています（第 24 章）。

4. アリーが、何十人もの男でも持ち上げられない砦の門を持ち上げたというのは本当ですか。

この話はスィーラ書でよく知られていますが、ハディース批判の学者たちによれば、その伝承経路は弱いものです。アリー رضى الله عنه の勇気と栄誉は、旗についての真正なハディース（第 6 章）とマルハブとの一騎打ちによってすでに確立されており、弱い伝承に頼る必要はありません。

5. ムトア婚の規定は何ですか。

スンナとジャマーアの民によれば、復活の日まで禁止です。根拠は『サヒーフ・ブハーリー』4216 と『サヒーフ・ムスリム』1406 です（第 23 章）。

6. なぜハイバルの住民はそのまま住み続けることを許されたのですか。

ムスリムには、広大な園を耕すだけの人手がまだなかったからです。一方ハイバルの住民はナツメヤシ栽培の専門家でした。協定には、ムスリムが許す限りかれらはとどまれると定められていました（『サヒーフ・ブハーリー』2338；第 12 章）。

7. ハイバルの毒がアッラーの使徒ﷺの死の原因となったのですか。

最後の病の中で、使徒はアーイシャに、ハイバルで食べたものの痛みを今も感じていると言われました（『サヒーフ・ブハーリー』4428）。一部の学者はここから、アッラーが使徒のために預言者としての栄誉と殉教の栄誉をともに集められたと理解しています。しかし使徒の死は、やはり定められた寿命におけるアッラーの定めによるものです。

8. アビシニアからの船の人々は戦利品の取り分を受けたのですか。

はい。アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がかれらに取り分を与えられたこと、そしてハイバルの開城に居合わせなかった者には、かれら以外に誰にも取り分を与えられなかったことを述べています（『サヒーフ・ブハーリー』3136）。

9. ニンニクは禁じられているのですか。

いいえ。禁じられているのは、その匂いをさせてモスクに来ることです（『サヒーフ・ブハーリー』853；第 23 章）。

10. なぜアッラーの使徒ﷺは、上質のナツメヤシ一升を並のナツメヤシ二升と交換することを禁じられたのですか。

ナツメヤシはリバー物品であり、ナツメヤシとの交換は同じ量でなければならないからです。使徒は許された道を示されました。お金で売り、それから買うことです（『サヒーフ・ブハーリー』2201）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

11. ハイバルとファダクの違いは何ですか。

ハイバルは戦いによって開かれたので、その財はガニーマ（戦利品）として戦利品章 8:41 に従って分配されました。ファダクは戦わずに降伏したので、その財はファイであり、集合章 59:6–7 によって定められています（第 18 章、第 19 章）。

12. 今日の私たちにとって、ハイバルの教訓は何ですか。

アッラーの約束は、忍耐する者に必ず果たされます。勝利には誠実さ、公正、そして規定への従順が伴わなければなりません。靴ひも一本、モスクでのニンニクの匂い、ナツメヤシの交換の仕方といった、小さく見える事柄においてもです。

教訓

これらの質問は、ハイバルの物語を、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、学者の見解を区別しながら読む必要があることを示しています。そうすることで、私たちは確かな教訓を得て、弱い話に頼らずにすむのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

ハイバルの戦いは、フダイビーヤの人々への**アッラーの約束の成就**です。厳しい条件を忍耐して受け入れた人々が、今や勝利と広い糧を受けました。しかし勝利の陰で、ハイバルは意図、誠実さ、従順、そして公正についても教えています。

教訓	ハイバルから学ぶ
アッラーの約束は果たされる	近い勝利（48:18）
導きはより尊い	「赤いラクダよりも良い」
アッラーとその使徒への愛	旗の担い手の資質
行いの最期	見かけにだまされない
公共の財産という預かりもの	外套と靴ひもは火から
すみやかな服従	ロバの肉の鍋がひっくり返される
取引の公正	収穫折半；イブン・ラワーハは賄賂を受け取らない
弱い立場の人を尊ぶ	サフィーヤは解放され、尊ばれた
犠牲は報われる	船の人々の二つのヒジュラ

私たちの暮らしの中のハイバル

私たち一人ひとりにも、開かなければならない「砦」があります — 怠け心、貪欲、自分本位な心です。ハイバルは、忍耐して努力し、靴ひも一本のような小さなことでも**預かりものを守り**、すべての人に**公正にふるまい**、人が導かれることを財産よりも高い目標とするよう教えています。

イン・シャー・アッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 17 巻** — ハイバルの後の出来事 — へと続きます。アッラーこそが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの注釈』（雌牛章 2:256；イムラーン家章 3:161；戦利品章 8:41；勝利章 48:18–21；集合章 59:6–7）。https://tafsir.app/ibn-katheer/48/18

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』118、371、610、2285、2617、3169、4196、4197、4199、4202、4209、4210、4217、4228、4230、4231、4234、4237、4242、4428、5086、6607。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』561、1807、2405。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』3894；『スナン・アビー・ダーウード』3010、4512；『イマーム・マーリクのムワッタア』。https://sunnah.com

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— ハイバルの章。

アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

サフィユッラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— ハイバルの戦いの章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『バーリーの開示（ファトフ・アル＝バーリー）』— 遠征の書、ハイバルの遠征の章。

科学

Wikipedia「Harrat Khaybar」— サウジアラビア北西部の火山地帯。https://en.wikipedia.org/wiki/Harrat_Khaybar

Wikipedia「Battle of Khaybar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Khaybar

Wikipedia「Safiyya bint Huyayy」。https://en.wikipedia.org/wiki/Safiyya_bint_Huyayy

Wikipedia「Ja'far ibn Abi Talib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Ja%27far_ibn_Abi_Talib

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4205（ハイバルへ向かう途中、声を低くしたタクビール）。https://sunnah.com/bukhari:4205

『サヒーフ・ムスリム』680（ハイバルからの帰路に眠り込む）。https://sunnah.com/muslim:680a

『サヒーフ・ブハーリー』2889（「これは私たちを愛する山である」）。https://sunnah.com/bukhari:2889

『サヒーフ・ブハーリー』4216；『サヒーフ・ムスリム』1406、1407（ムトア婚の禁止）。https://sunnah.com/bukhari:4216

『サヒーフ・ブハーリー』853（ニンニクとモスク）。https://sunnah.com/bukhari:853

『サヒーフ・ムスリム』1591（ハイバルの日の金とビーズの首飾り）。https://sunnah.com/muslim:1591b

『サヒーフ・ブハーリー』2201、2202（ジャニーブのナツメヤシ）。https://sunnah.com/bukhari:2201

『サヒーフ・ブハーリー』2338（ハイバルの住民がタイマーとアリーハーへ移される）。https://sunnah.com/bukhari:2338

ScienceAlert「Ancient Town From 4,000 Years Ago Found Hidden in Saudi Arabian Oasis」（2024年）。https://www.sciencealert.com/ancient-town-from-4000-years-ago-found-hidden-in-saudi-arabian-oasis

Wikipedia「Khaybar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Khaybar

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

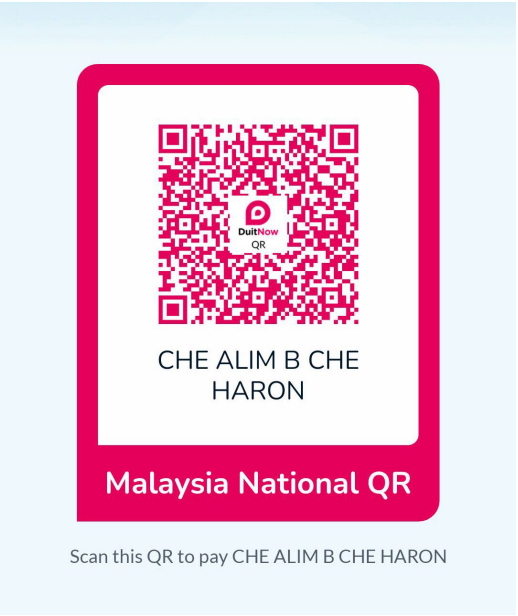
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience